

# 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

2月20日(日)、『未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い』が松本市中央公民館(Mウィング)ほか3会場で開催されました。

この集いは、地域住民や学生、市民団体、企業など様々な立場の住民と職員が一堂に会し、まちづくりの取組みや課題を持ち寄り、話し合い、ヒト・モノ・コトの「つながり」やそれぞれの活動を発展させていく「気づき」を生み出すことを目的に毎年開催されているものです。

午前中は松本大学の松田教授がコーディネーターとなり、「多様性のなかの学びと自治」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

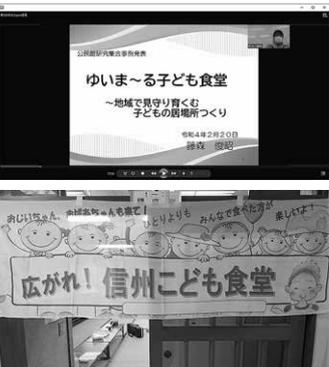
午後は6つのテーマごとに分科会が開かれ、島立地区からも2つの事例が取り上げられました。それぞれの事例の実践者が活動内容を発表したり、意見交換をしながら、新たな地域づくりについて議論を深めました。



**第2分科会**

第2分科会は、「子どもを真ん中に」をスローガンに、各世代の子どもが主体的に地域づくりに参画している活動や、子どものための支援活動など、多様な実践事例を取り上げながら、参加者同士が意見交換を行いました。

事例発表では、島立地区で活動している「森・杜探険隊」の実践について、代表の木下明子さんより報告がありました。森・杜探険隊は住民主体の地域づくり活動の一環として平成27年度に発足しました。子ども会育成会、学校、保護者、地域住民、公民館とともに、豊かな自然に恵まれた地域で歴史・文化・自然の体験を通じて学ぶ活動を行っています。体験学習を通じて、自然の豊かさを五感で感じ、歴史と文化を学ぶとともに、自然との共生、命の大切さを育み、



**第3分科会**

第3分科会は、「多様な連携で生み出す新しい風」をテーマに開催されました。個人の想いや「この指とまれ」式の活動が周囲の共感を集め、多様な繋がりを生むことがあります。

事例発表では、今年度から島立地区内で実施されている「ゆいま〜る・子ども食堂」の主催者、藤森俊昭さんから、これまでの活動報告がありました。地域の理解もあり、多くの方にボランティアとしてご協力いただいたことが大変ありがたかったです。コロナ禍であっても継続性が重要との想いから、キッチンカーによるお弁当配付など、できることをやってきました。この活動が、小学生、中学生、高校生、地域の大人の居場所となると嬉しい。今後も「地域で子どもを見守る居場所づくり」に主眼を置いて活動していきたいと話されています。

令和2年1月、中国で新型コロナウイルスが流れ、松本でも市民にアルコールによる手指の消毒が周知されましたが、まだ余り危機感を感じられず、島立地区新年祝賀会、町内公民館長会、館報編集委員会、体協理事會、ボラ協役員会、島立っ子応援団運営委員会などが通常どおり開催されておりました。2月下旬に松本地域で感染者が発生するまで、松島中心援助運営委員会、チーム若鷹運営委員会、町内公民館長会を南栗公民館で開催し、図書入れ替え作業、森・杜探険隊の活動も計画通り実施しておりましたが、「島内・島立ふれ愛コンサート」は中止となりました。この時期に、ある町内公民館長から町内行事の実施を決めた際に感染を心配した住民から責任問題を問われ実施を断念するという事象も発生しました。3月に入り小中学校が一斉臨時休業になり、例年来賓を迎えて行われる卒業式も保護者のみでの参列で行われ、大きくなったね会を中止、公民館の貸館予約中止、松本城なども休業、市民へは感染防止対策徹底を呼びかけチラシも全戸配布されました。松本市長選挙も感染対策をし、密にならないよう会場への入場制限をしながらの実施でした。

## 新型コロナウイルス感染と公民館事業等の振り返り

島立公民館長 伊藤 悦夫

4月に入り松本市の感染者も徐々に増え、小中学校の入学式は入学児童の保護者のみの参列で行われました。公民館長会など委員会は開催しましたが、体育協会、育成会総会など大人数の会議、また例年行われている島立地区歓迎会も中止となりました。この頃から職員が出勤する際、体温の記録が義務付けられ現在も毎朝記録しています。「塩の道を歩き歴史を学ぶ講座」はバス利用の密を避けるため中止とし、体育協会主催のスポーツ大会は、その都度感染状況を確認のうえ理事會等での検討の結果、令和3年度の大会は中止となりました。11月は感染状況がやや落ち着いてきたので「あなたの知らない松本城講座」「歴代市長と松本市の発展講座」文化祭・ひろば祭は展示発表のみとし、公民館駐車場で小中学生吹奏楽部等の演奏機会を確保するための「あおぞら演奏会」を開催しました。令和3年度も感染拡大が収まらず累計で4400人超の感染者が発生しており、前年同様中止の事業が多くなりましたが、令和4年度も公民館委員会を中心に事業が実施できる方法を探りながら、また現在に合った事業の検討をし、住民の繋がりの場を求めていきたいと思えます。

令和4年3月1日現在  
世帯数 2,873 世帯  
男 3,273 人  
女 3,416 人  
総人口 6,689 人



# 写真で振り返る公民館事業 — 今年度実施した特徴的な一部の事業をご紹介します —



## 10月・12月 「しまだちフードドライブ」

島立地区をはじめ、市内で行われている子ども食堂を応援するためのフードドライブを実施しました。多くの方に食料品等を寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。



## 8月 「モミジの七夕」

安曇地区稲核の伝統行事であるモミジの七夕を紹介するとともに、島立公民館でも展示を行いました。

### 編集後記

館報編集委員の皆さんに編集後記として今年度の委員会活動を振り返っていただきました。

新型コロナウイルスの影響で地区活動が少なく、紙面構成では写真を多く使用するなど工夫しました。季節の写真などに挑戦しましたが、なかなかこれが上手に撮れなくて…。写真撮影の難しさを痛感しました。

(荒井)

館報島立版をご覧いただき、ありがとうございます。コロナ禍で行事が全てキャンセルになってしまい、本当に苦しい一年でした。来年度はコロナが収束し、楽しい話題をお届け出来たら嬉しいですね。

(堀米)

編集に携わり2年目ですが、今年もコロナ禍でイベントの多くが中止となり、記事を投稿する機会には恵まれませんでした。活動を通して住んでいる地域への関心を深めることができ、良い経験になったと感じています。

(大庭)

館報編集委員として2年間務めさせていただきました。地域の出来事をみなさんにお伝えす

べく努めてまいりました。コロナ禍の中、多くの行事が中止となり、記事のネタ選定に苦慮いたしました。早く日常を取り戻せることを切に願うところで

(小柴)

コロナ禍の影響で直接取材に伺うことが出来ず、写真で様子を伝えることが多い年でした。私にとって島立は知らないことだらけですが、それでも少しずつ戻ってきた行事をお伝えすることが出来たと思います。

(町区)

2年間館報編集委員を務めさせていただきました。その間、数回記事を書く機会がありましたが、実際に取材したことや、何度も推敲し記事を提出したことなど、良い経験となりました。今後は「しまだち」の一読者として、楽しみにしたいと思います。

(永田)

今年度も新型コロナウイルスの影響でほとんどの行事が中止となりました。とても残念でしたが1日も早くコロナが終息し、新年度は皆様により良い公民館報をお届け出来ればと思っています。1年間ありがとうございました。

(中村)

感染症の蔓延を防ぐ為に、ほ

とんどの行事がやむなく中止の中、小正月の伝統行事の三九郎は辛うじて実施出来ました。館報に載せる写真を撮りながら、勢いよく燃え上がる炎に「疫病退散」を切に願った私でした。

(三の宮)

編集委員の皆さんの豊富なアイデア、熱意、公平性等に触れ、広報作成の大変さを知りました。また、季節ごとに提供される画像の数々には心動きました。力不足でしたが、ありがとうございました。

(北栗)

新型コロナウイルス感染が収まらずに会議や行事が中止となる状況で発刊する1年でした。通常では多くの記事候補から取



▲ 春を待つ



▲ 福寿草



▲ 蠟梅



▲ オイヌノフグリ

材先を選択して編集委員が紙面を作成していただきましたが、取材候補がないことや取材に入れないなど苦労しました。紙面構成も今年度は単なるカットではなく館報編集委員が季節の写真をテーマに毎号全員に撮影して提出されたものから作って載せました。小さいサイズではもったいないものが多くあり、紙面に載らなかつたものは秋の作品展発表会の会場で展示をしました。まだまだ終息の気配さえ感じられない感染状況ですが公民館報としての役目を考え、読んでいただける館報島立版を発行できたらと考えます。

(南栗・編集委員長)